

何を捨てても本だけは

江宮 隆之

最近、11年間乗ってきたアメリカ車を国産車に乗り換えた。それもハイブリッド車である。
「11年も乗ってきたら、さぞ愛着があったでしょうね」などと、言ってくれる友人がいた。
「いや、そんなことはありませんよ。まったく愛着や寂しさなんてありません。捨てたようなものですから。過去には未練を残さないタチなんで」
こう答えると、白けたような顔をされてしまった。
散らかし放題になっている仕事部屋だが、半年に一度くらい、思い立って掃除をする。整理と言い換えてもいいのだが、とにかく捨てる、捨てる、捨てる。いかに捨てるかが、整理のコツ。そう頑なに信じているからである。
捨て去って、しばらく経って「はっ」とする。あの資料はどこにしまったっけ。整理と称して捨て去ったものの中に、紛れて無くなった資料はすでに焼却処分になっていた・・・。
いつも前向きに生きていると、捨てられないものなどありません。不要になったら捨てる。邪魔なものも捨てる。それはモノだけではない。人間関係も同

様である。
心の柵に引っ掛かるような人間関係は捨てた方がキッパリしていい。
昨年の6月、30年以上お世話になった会社を辞めた。理由の第一は、煩わしい人間関係に嫌気が差したことだった。人間不信にも陥った。
その人間不信が、病気まで引き起こしてくれた。ところが会社を辞めたら、不思議なことに病気が治ってしまった。病いは気からでしょうか。
だから、捨てることには何の未練もない。そうだったはずだが、しかし一つだけ、どうしても捨てられないものがあることに、はたと気付いた。
本である。
小学校のころに読んだ本から、かなりつまらないと思われる本まで、本は捨てられない。雑誌の類も30年前、40年前のものが大事にしまっている。
つまらない人間関係で学んだことが、本の中には山ほど書いてあった。なるほど、歴史に学ぶとはこのことか。そう思う。だから私は捨てられない。誰を捨てても、本だけは捨てられない。

捨てられないもの

古屋 久昭

捨てられないものの一番はこの命。「そんな当たり前

のつまらんことをいいますなよ、ほかにないのかよ」と叱られてしまいそうだが、がん告知をされ、転移一歩手前、摘出手術により幸運にも命拾いをした身、真実実感である。

年間3万人以上の人が自ら命を捨て、火事死だ、自然災害死だ、事故死だ、果ては殺人だ、餓死だ、自爆死だと、また、戦争によって国家に捨てられる命も無数にあって、いつになっても地球上では不条理な死が延々とつづいている。

天野忠という好きな詩人に、「あ～あ」という詩がある。

「最後に/あ～あというて人は死ぬ/生まれたときも/あ～あというた/いろいろなことを覚えて/長いこと人はかけずりまわる/それから死ぬ/わたしも死ぬときは/あ～あというであろう(以下略)」

「あ～あ」というて人は死ぬ、ということだが、しかし考えてみればこれほどめでたい死に方もないのだ。不条理な死ならば、たいてい「あっ」である。「あ～あ」などと感慨ぶってはいられない。一瞬にして死

なのである。

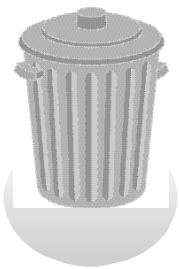
死ぬもの貧乏。死んで花実が咲くものか、というではないか。捨てられないもの、まずは命とおきたいのである。

捨てられないものの二番目はわがカミさん、ということになるのか。「おへ、愛妻家！」などと掛け声のひとつもとんできそうだが、愛妻家とは意味がちがうのだ。

定年退職後ますますカミさんへの依存度が高まっている。「ほれ、あの、その、なんだ、あれだ、これだ」といえば、「探しているのはこれでしょう」と車の鍵だの免許証だの靴下だの帽子だの、目の前にそれらは手品のように現れてくるのである。

これだから最近特に気にかけている初期認知症気味であっても、カミさんさえいればひとまず安心なのである。ついでにいえば、自慢じゃないが料理はゆで卵しかつぐれない男である。家事一切がカミさん頼みである。

カミさんは捨てられないが、カミさんにはいつ捨てられてしまうのか、こちらは常時危うい日々というわけだ。



捨てられないもの

岩崎 正吾

わが人生に捨てられないものはたくさんある。たとえば、古き恋の思い出。若き日にもらったおびたしいラブレター、……なんて、ちょっとばかり気取りすぎか。

こんなたぐいのものもほんの少しばかりだが、ないこともない。しかし、捨てられないどころか、向こうからわたしをあっさり捨ててくれた。シャボン玉のように、はかなく消えてしまったのである。今ではあったことすら忘れてしまった。

いまもわたしの生活のなかにあって、捨てられないものは一つしかない。わたしを知る人ならおおかた予想がつくだろうが、捨てられないものは本である。なあんだ、やはりそうかと言われそうな、われながらつまらぬ答えだと思う。

今まで家を2軒変え、今3軒目に住んでいる。家を変えるたび、いつも困るのは本の始末である。家人からは「捨てろ、捨てろ」と大合唱される。自分でも本がなくなれば、わたしの身辺は実に清々になるだろうと思っている。

本の置く場所がいらなくなれば、わがウサギ小屋

はイヌ小屋くらいには広くなるだろう。日は差し込むようになるし、風通しもよくなる。床が沈むことを心配しなくてもいいし、地震のとき倒れてくる不安もなくなる。

本がなくなればいいことづくめののだが、しかし、それが出来ない。過去に古本屋に売りに行ったことがある。あまりの安さに愕然として、もう二度と売るものかと思った。しかし、本を置いておいても、もうほとんど役に立たなくなってしまった。開架式の本箱が置けなくなって、多くの本がダンボールに詰める状態になった。何がどこにあるかわからないから、文字通り「死蔵」である。加えて、古い本のほとんどが読めなくなってしまった。活字が小さすぎて、老眼鏡では読めないものである。

だから、この先どうなるのか。「蔵書一代」だと覚悟しているが、死後、タダ同然、紙クズのようにになってしまうのは悲しい。できれば過疎の村が、本で地域興しでも出来ないかと夢想しているが…。

貧乏性

佐藤 真佐美

いつぞやある山道を探検していると、人家が見当たらないのにゴミの山がある。猿の集落の共同ゴミ処理場かな、などと首を傾げながら通り過ぎようとして、ほーと足を止めた。直径七、八センチ、長さ一メートルほどの竹筒の先に、木製の魚を取りつけたモノが転がっている。

郷里の知床では火鉢とか囲炉裏は、冬の暖房には役立たない。ブリキ製のストーブに薪をくべ、煙突がまっ赤になるほど燃す。そんなわけで、本物の自在鉤しざいかぎを見るのは初めてだった。だまって持っていってもいづらか、もちろんいいにちがいない、と自問自答して、汚れているのも構わず肩に担いだ。いまわが書齋「墓辺見庵」の一角に、年代ものの火鉢とともに飾っている。故郷でなら「へー、いいものみつけたなあ」と羨ましがられるはずなのに、このあたりではだれも話題にもしない。

家を壊すと聞けばすっとなんでいき、アルミサッシのガラス戸を貰ってきたり、あっちのゴミ捨て場をあさり、こっちのゴミ回収所を覗き、女房にこごとを言われながら集めたがらくたが、庭のそこいらに散らばっ

ている。破れたガラス戸などを修理するのに結構役にたっている。ある日骨董屋が訪れ、壊れた桐の筆筥と引き出しつきの木製火鉢に目をとめ、数千円をおいていった。これで焼酎が買えるぞとほくそえんだ。今回自宅の環境整備のためがらくたの一部を処分したのだが、もしかしたら焼酎の元がまだあったかもと、ジクジク未練を残している。

娘たちは、一本ウン万円もするジーパンを買ってきても、飽きると即座に捨ててしまう。女房も娘たちと同類である。かつてわたしがアメリカにいたころ(四十年近く前)、クリスマスのプレゼントに貰ったトレーナーを愛用していたのだが、いつの間にか消えている。「古くなったから捨てたわ」とあっさりしたものだ。焼酎は買えないが、わたしにとっては青年時代の思い出深い記念品であった。生まれが貧乏だったから、なかなか物が捨てられない。

江宮隆之■
えみや・たかゆき
1968年増穂町生まれ。
作家。第13回歴史文学
賞、第9回中村屋源文
学賞受賞。代表作に
『白狐の人』など。最新
刊は『真田幸隆』(学研
M文庫)

古屋久昭■
1943年豊坂町生まれ
日本現代詩人会会員 日
本現代詩歌文学館評議
員 詩集に『落日探集』
ほか。童謡集に『虫らし
く花らしく』 エッセー
集等

岩崎正吾■
1944年甲府市生まれ
作家 山梨ふるさと文
庫代表 現在 1冊で
も本のつくれるオンデ
マンド印刷機を山梨に
導入しようと奮闘中
また インターネット上
で作家 出版活動をし
ようと模索中 今春
新作ミステリー『探偵の
冬』が刊行され 同時
に『探偵の秋』が文庫化
される

佐藤真佐美■
1939年北海道生まれ
日本児童文学者協会
日本児童文学協会会員
著書に『怪奇!大東京
妖怪ゾーン』(ポプラ社)
『文ちゃんのはるかな知
床』(北海道新聞社) 近
著に『シレットフのシル
バー』(華英社)『山梨の
童話』(リリオ出版)など

独自の造形作品 地場産業の和紙を 現代アートに蘇らせる



早野 潔



深沢 修 氏

ゲスト

ふかさわ おさむ

深沢 修 氏

1948年山梨県増穂町生まれ
造形作家

ホスト

はやの きよし
早野 潔

早野組社長

紙幣に、現代美術に 紙の歴史は2200年

早野 先生は、地場産業の和紙や植物繊維を素材に、独自の造形作品を創作され、これまで50回を超える個展を開催し、また、パリ、ベルリン、イタリア、中国などにも出品され、評価を得ています。山梨グッドデザインフェア最優秀知事賞にも輝いています。

青年時代は、油絵をお描きになっていて、本格的に紙の制作をされるようになったのは、30代になられてからだそうですね。

深沢 日本の戦後、現代美術というのは、あえていえば、アメリカの美術ですが、若いときというのは、地域にいながらも、どうしても、外へ、ニューヨークへと目が向いてしまうものです。そうした時代を経て、地域に原点を求める美術、独自の美術に関心をもつようになったのです。

紙に出会ったのは、その頃のことです。増穂に生まれ育ちましたが、思えば、周辺は伝統的な和紙の産地です。やっと、自分のポジションが自覚できたということになります。

早野 紙と人間の関わりは古いですよね。紙の発明は、中国で、紀元前150年頃の地図が残されているといいます。日本で紙が最初に作られたのは「日本書紀」によると610年とありますね。

深沢 紙は、植物の麻や、コウゾの樹皮が原料で、これを煮て、繊維を採り出し、木や石の台で叩き、水で溶かし、ろ過し、乾燥するのですが、この方法は、昔から今日まで変わっていません。

早野 「紙を漉(す)く」といいますが、「漉く」というのは、どういうことをいうのでしょうか。

深沢 水に溶かした紙の原料を、竹や葦(あし)で編んだ簀(す)の上に敷いて、つまりスダレですが、平らにしていく作業のことです。

紙の発明は、ものを記録したり、伝達したりと、文明を発展させて、画期的でしたね。ものを拭く、包むなどと、用途も多様です。身の回りには、たくさんの紙が使われていますが、何といても、紙幣は、紙で出来ているということでしょう。

早野 紙の価値の象徴ですね。そして、美術の世界においても、先生によって、さらなる価値を広げています。

山梨における紙の産地は、市川大門や西島が知られますが、起源はいつ頃のことでしょう。

深沢 市川の和紙は、古くから、玉のようで、雲よりも美しいとも、美人の素肌のように美しいとも賞賛され、「肌吉」の呼び名で知られていました。

武田の時代には、二人の紙漉工が諸役を免除され、御用紙を納めていたといいますし、徳川家康からも御用紙漉として特権を認められていました。江戸時代になると需要は拡大し、紙漉衆も増え、上質紙は幕府御納戸御用紙として納入されるようになりました。また、一般に販売する売紙漉衆も増えていきました。

西島も、戦国時代の末、伊豆方面から製紙技術がもたらされ、市川大門とともに、その名を高めていったと伝えられています。

早野 この地域には芦川が流れ、水

に恵まれていたこともあるでしょうし、紙の原料であるコウゾやミツマタもよく採れたのでしょね。

深沢 増穂でも、傾斜地でコウゾや雁皮(がんび)を栽培し、紙漉が行われていたといいます。コウゾは、桑科の植物で、いまも平林地区には「楮(コウゾ)畠」という地名があります。雁皮は沈丁花科の植物で、この樹皮で漉いた紙は雁皮紙といい、薄手で、上品で、珍重されました。

紙漉の盛んだった頃を偲ぶ民謡がありますから、ご紹介しましょう。

「市川の紙漉歌」

紙すき嫌で家を出て

エー くされ縁

またいく先も 紙すき

嫌だら嫌と初手にいえ

繻子^{しす}の帯 買わせておいて

嫌とは

頼みますぞよ 紙すきさんよ

ふくれぶくれのない紙を

数で買ってくれよ 勘定しちゃ

嫌よ

言うて目方じゃなお嫌よ

嫌だおかやん たたぬ紙

嫌だ

今日も三百枚で日を暮らす

紙やで楽は なにが楽

のりすりと 楮草^{かしぐさ}ひきがー

楽

「擬態」のテーマを追求 植物の記憶と水の記憶

早野 先生は造形作家として「擬態」というテーマに取り組んでいらっしゃいます。そのなかで、「紙の自立」ということもおっしゃっています。作品を拝見しますと、ひとえに紙の作



品、という範疇ではなく、不思議な世界に誘われます。

深沢 紙は、もともと植物が「擬態」したものだと受け止めています。紙は植物から生まれ、社会のなかでさまざまな用途に用いられ、役割を果たし、朽ちて、自然に戻り、また、紙に再生されます。つまり、「擬態」していくのです。

こうした過程において、紙は、記憶をもつようになります。紙を作るときには、水を使いますが、水の記憶というものもあるでしょう。その記憶を呼び覚ましたいですね。

早野 画家は制作するときに、紙に描きます。このとき紙は材料です。これに対し、先生は紙そのものを対象として、作品をお作りになります。深沢 はい。紙は、従来の描くためのものではなく、紙を創ることで、紙の自立を図り、また、生きた皮膚として、紙の復権を目指したいですね。したがって、私の作品は、植物が平面に「擬態」したものといっているでしょう。

早野 どんな材料をお使いになるのでしょうか。コウゾや麻ばかりではありませんね。

深沢 ヒノキ、竹、桑、草、ワラ、藤や、バナナなど、あらゆる樹皮を使います。こうした植物繊維をベースにして、そのなかに、木炭、麻、昆虫、金属などを入れ、独自の方法で漉き上げます。色も自然のもので、めったに人工色は使いません。

早野 作品からは、さまざまな自然の営みがイメージされてきますが、制作の秘密は何でしょう。

深沢 紙漉には大量の水を使いますが、その水の感触が、イメージを触発してくれます。また、自然のパワーを造形のなかに取り入れたいと努めます。作品は、植物が水を媒介として、一枚の平面に化したもので、水の皮膚の変容だ、といってもよいでしょうか。

早野 先生のお仕事は、伝統技術を必要としますが、いま、紙について学び、技術を習得するというのは、難しいことなのではないでしょうか。

深沢 たとえば油彩を教える学校や、先生はいますが、紙の学校や、先生はいません。したがって、すべて職人さんから修得するしかありません。紙漉も職人さんから習いましたし、たとえば、糊の使い方を修得するために、傘張りの職人さんを搜したりもしました。

経済優先の時代で、職人の世界は限られていると実感しますね。昔からのことを、その道ひと筋に励んでいるのですが、生活が成り立ちません。しかし、大切な仕事なのですから、各種の職人さんをプロデュースするような人や、仕組みがあればいいのですがね。

■ 富士川流域の文化圏 地域に集う、発信する

早野 先生は、富士川流域の文化活動もされています。市町村という行政区分を超えて、富士川の流域をひとつのエリアと捉えて、交流の機会を広げ、事業を興し、発信しているように感じます。

これは、地域に原点を求める美術、独自の美術に関心をもつようになり、紙に出会われたという、先生の制作の理念と共通するものですね。

深沢 美術の機能というのは、ただ制作に専念し、また、美術館や画廊で発表することだけなのか、という疑問があります。そこに、美術は社会とどのようにジョイントしていったらいいのか、美術にはその力があるのか、という発想と、問いかけが生まれます。アートによって、まちづくりや、地域づくりができたならという展望です。

早野 新しい視点ですし、大いに期

待したいですね。これまでのまちづくりは行政単位でしたから、たとえば観光の施策にしても、点は作れても、線になっていかない、連続していきません。近隣との関係づくりができないのですね。また、限られたスタッフや予算ですから、知恵や、力が発揮できませんでした。

深沢 富士川流域の歴史を学ぶと、かつては流域がひとつの文化圏だったことがわかります。富士川水運があり、鯀沢、青柳、黒沢は三河岸と称され、富士川舟運の起点で、繁栄しました。信仰の地、身延山もあり、賑わいました。モノ作りも盛んで、和紙はもとより、雨畑硯も全国に知られていました。

そこで、流域の歴史や文化を共通意識として、伝統の工芸品もモノ作り、野菜も果実も酒も味噌も、モノ作り、アートもモノ作り、という発想で、富士川流域の技術を紹介する物産展を企画しました。

早野 富士川流域のたくさんの産物とアートが、モノ作りというひとつのテーマのもとに集合したのですね。おのずと、これまで出会うことのなかった人たちも参加しますから、交流がはじまっていきます。地域への誇りや愛着が生まれます。これらは地域力になっていきますね。

深沢 流域には、陶芸をする人など、新しい住人も多くなり、モノ作りの地として活気があり、注目もされるようになりました。

早野 先生は、紙の造形作家として前衛のお仕事をなさっていますが、それは、伝統に根ざしていて、過去と現在をいつも往復されて、創作をされているような印象を受けます。

このことは、まちづくり、地域づくりにもいえるような気がします。

深沢 富士川舟運の話は、子供の頃、お年寄りからよく聞かされました。鯀沢から静岡の岩淵までの72キロの水運で、徳川家康により、慶長12年(1607)から5年を掛けて開かれたといえます。急流で、岩が多いので、舟は底が平板で、笹舟と呼ばれていたようです。

早野 年貢米を江戸に運んだのですね。また、静岡からは塩などが運ばれたようです。明治36年に中央線が開通するまでは、山梨の交通運輸に大きな役割を果たしました。

深沢 富士川下りは、十返舎一九の「身延山道中の記」にも描かれましたし、落語の名作には「鯀沢」があります。歴史は面白いですし、発見がありますね。実は歴史こそ未来のヒントなんです。

■ 歴史ある「六斎市」 流域の物産展を開催

早野 富士川流域のモノ作りの物産展は、どのような名称でPRしている

のですか。

深沢 「六斎市」といいます。この名称も、この地の歴史にちなんだものです。

増穂の青柳には、古くから市がたっていて、発生は庄園時代で、大井庄の中央の便利な場所にあります。庄園内の生産物を取り引きしたのでしょ

うね。早野 大井庄を治めていたのは大井信達で、娘は武田信虎に嫁いだ大井夫人ですね、信玄の母です。青柳の市の収入は、大井氏の経済基盤になったのでしょ

うね。深沢 この青柳の市は「六斎市」と呼ばれました。これは月6回、市が立ったということと、仏教の「月六日」の持戒に由来するといえます。持戒とは、仏の戒(いましめ)を固く守るという意味です。

早野 どのようなものを取り引きされたのでしょうか。つまり、その頃のモノ作りとは、どのようなものだったのでしょうか。

深沢 畑の作物としては雑穀類、綿、柿。林産物としては、漆(うるし)。

加工品では、綿布、干し柿、生糸な



どです。

早野 「六斎市」のはじまりは、約500年前ということになりますね。それを復活しようというわけですね。

昔と今日の「六斎市」や、また、モノ作りと比較すると、興味深いですね。
深沢 そうです。六斎市は今日の商店街のおこりなんです。現在では、地域の商店街が衰退していますが、それも経済性と効率性を優先する社会の弊害だと思っています。元来の市は売買だけではなく、大切な人々のコミュニティーの場であったことを忘れてはいけません。

紙の制作と、環境問題 今後の課題、エコロジー

早野 紙の造形をされ、その制作は植物や水と深い関わりがあることから、環境問題にも取り組まれるようになられました。情報誌「エコロ人」の編集もされています。

深沢 「エコロ人」は富士山北麓の

環境を考える情報誌です。地元の富士山世界遺産推進会議が発足するきっかけにもなりました。

早野 どのようなことに注目されているのでしょうか。

深沢 世界遺産は結構なことですが、これまでの傾向を見ていると、世界遺産の周辺が観光化していき、環境が破壊されていて、このことが危惧されます。そこで、地域で生活し、地域の自然をもっともよく知っている人たちが参加し、発言していかなければなりません。「エコロ人」は発刊してまだ4年ですが、シンポジウムを開催するなど、多様な発言の場にしていきたいですね。

早野 環境問題は、いまや世界の取り組みですが、現代美術作家の視点を知り、こころをうたえました。これから「アート&エコロジー」というテーマのもと、展覧会も積極的に展開されていくご計画のようですね。

深沢 今年の10月、「Circulation展」

というアートで自然環境を考える企画展をします。今日、私たちの暮らしに大切なことは、自然のサイクルを、どのように捉えていくのか、ということだと思います。

早野 情報化社会、ITの時代で、ペーパーレスだともいわれますが、紙は需要を伸ばしているそうです。また、再生され、有効活用もされています。つまり、紙には生命があり、先生のおっしゃる「擬態」を続けていくのですね。

先生のアトリエ「夢紙(むし)工房」は、八ヶ岳の麓、名水百選の「三分一湧水」の近くに 있습니다。素敵なネーミングですね。

深沢 作品が展示してありますし、紙の造形教室も開いています。どうぞ体験にいらしてください。

早野 紙の制作は植物と、水と親しみ、自然を感じることで、という制作の基本は、今日、マスターしました。

〔構成：三神 弘〕



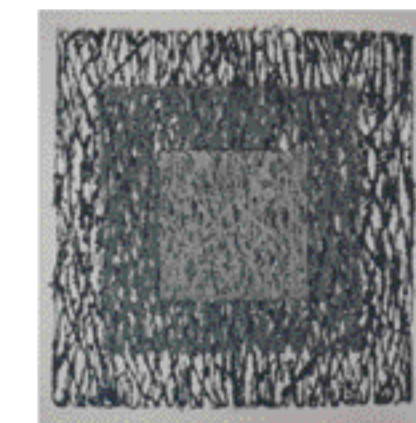
森のミメシス



太古の記憶
(Memory of Primitive)

私(我々)が求める〈平面〉とは、意味や象徴の生産でも、形相の生産でもない。両義的な場におけるシニフェイの解体、シニフィアンの浮上といった差異の戯れの中に身を浸すことである。そして、視るものの秩序を解体し、再生し、迷宮に引き入れることによって、視るものの生の再創造という生命のダイナミズムにたちあわすこと、それが擬態考の概念である。

(論考・擬態考より)



Abstract
(ミメシスシリーズ)

インテリア

ジュエリー
シリーズ



エコアートインテリア
シリーズ



室内展示

レクチャー

「おじさん、この食堂ではまさか中国産の野菜は使っていないでしょうね」「なんで」「僕ら中国人だけど、中国産の野菜は怖いから食べないんだよ」と言ったという。筆者はこの話を大学近くの食堂の店主から聞いたが、「中国人が言うのだから間違いないね」と、その時はただ相槌を打っただけだった。

しかし、世界を驚愕させた「ダンボール入り肉まん」報道がなされて以来、俄然、中国産食品に対する恐怖感が高まってきた。と言うのも、夏休み中に26回目の中朝国境踏査を予定しているからだ。今までの中国旅行では一度たりとも食堂で出される料理や調味料などに、疑いを持つことはなかった。唯一、水だけは気をつけるように言われていたの、飲料水には細心の注意を払っていた。

ところが北京の露天商による「ダンボール入り肉まん」作りのおぞましい手口が、北京テレビの「隠し撮り映像」で報じられて以来（この報道自体は後に撮影クルーによる「虚偽報道」であることが判明したが）、各種のマスコミは堰を切ったかのように、次から次へと「中国トンデモ食品」の実態を明らかにしてきた。曰く、プラスチックで光沢をつけた毒コメ、ブタのふんで調味した臭豆腐、下水から抽出した油で揚げたパン、でんぶんで作った偽粉ミルク、髪の毛を混ぜた偽醤油、古革靴を煮て作った偽牛乳、ブタの廃棄物で作った肉まん、でんぶんや樹脂で作った偽卵等、枚挙にいとまがない。

問題はこれら中国内で作られた食品が、世界各国に輸出されていることだ。筆者は家内と4月末に韓国、7月に台湾に行ってきたが、これらの国でも中国産の食品が話題に

「ダンボール入り肉まん」騒動が警鐘するもの

山梨学院大学
経営情報学部教授

宮塚利雄

なっていた。韓国では発がん性物質ホルムアルデヒドを含んだ中国産のビールや、炭疽病にかかったカビのふいた唐辛子で作った中国産の唐辛子粉などが見つかって大問題となった。

日本にも「中国トンデモ食品」が大量に入り込んできている。「土用の丑」の日、家内と近所のウナギ屋に入った。「まさか中国産のウナギではないだろうね」と、疑心暗鬼になったが、家内が「この店のウナギは国内の有名な養殖場から取り寄せたのよ」と言うので、安心した。

筆者が中国産ウナギにこだわったのは、7月13日に群馬県内のスーパーマーケットで販売されていた冷凍の中国産ウナギかば焼きから、使用禁止となっている合成抗菌剤

「マラカイトグリーン」の代謝物が検出されたと県健康福祉局が発表したからだった。しかも、この商品の約1350匹分の大半が販売済みだったということを知ったからである。このマラカイトグリーンに対しては、米国では発がん性があるとして、米食品医薬品局は6月から中国産ウナギの輸入禁止としていた代物である。

危険な中国産の食品はウナギだけではない。多くの中国産の食品が我々の食卓に並んでおり、否応なしに今後とも中国産の食品と付き合っていかなければならないのが実情である。さらに最近では中国産の食品は危険であるから、国産の食品だけを食べようとしても、これまた無理な相談である。と言うのも、「国内産」だと思って買った食品が、実は「中国産」であったという事実が明らかになっている。中国産を国産に偽装した主な食品として、「茶、フランス鴨、アサリ、ブロッコリー、桃の缶詰、ゴボウの加工品、アサリ、米、そば粉、乾燥シイタケ、ヒジキ、クラゲ」（ここまできた「中国産」隠し『週刊朝日』2007・8・3号）など、どれも普段よく食べている物ばかりである。日本にとって今回の「ダンボール入り肉まん」騒動は、対岸の火事とばかりは言っていられない。大量の中国産食品が食卓を賑わしている現状において、中国産の食品問題は「危険だから食べてはいけない」と言う、単純な警戒心だけで解決しない。問題の一因は日本側にもある。「安かろう、良かろう」と言う安易な購買意識が、中国から大量の食品を輸入せざるをえない状況を作っているからだ。「ダンボール入り肉まん」騒動は、日本人の食糧問題に対する深い警告を与えてくれた。

環境先進国ドイツの名車といえば、メルセデスベンツ。その最上級モデルSクラスでは、木や紙、ココナッツ繊維等の植物系素材が1台当たり43kgも使用されている。日本においても、各自動車メーカーがより安全で簡単に解体できる設計やツールの開発に躍起だ。さて、車社会山梨に暮らす私たち。自動車のリサイクルに対する認識度はいかほどだろう。

時代の要請に応じられるようリサイクルの老舗が立ち上げた新会社

2005年1月に施行された「使用済自動車の再資源化等に関する法律」（通称「自動車リサイクル法」）。これに基づき、自動車の所有者はリサイクル料金を支払うことが義務づけられた。一方、メーカーは使用済自動車（以下「使用済車」）から発生するフロン類、エアバック類、シュレッダーダストの3品目を引き取り、リサイクルと適正処理を進めることが役割づけられている。その使用済車のリサイクルを、知事から許可を得て行っているのが笛吹市境川町の「日本カービルト株式会社」である。

海外も主要な取引先グローバルに広がる業務

「単なる解体業でない、私たちは中古部品製造業である」という意味合いを社名に込めた。新工場が完成し、本格稼働したのが今春5月。回収された使用済車はまず、タイヤ、バッテリー等を外し、オイルやフロン等の液抜き処理を施す。そして鉄と銅、アルミに分け、中古部品や再生部品はネットを通じ国内外の業者に販売。最後に残った部分をプレス機で圧縮する。「シュレッダーダスト」と呼ばれるこ

の固まりは（プラスチックやウレタン、ガラス等から成り）、今まで埋立処分されてきたが、最近、熔融スラグや有用ガス等に資源としてリサイクル可能になった。

一部の液体やガスを除き、車全体をリサイクルする時代が来たのだ。「リサイクル法はもちろん温暖化防止への対処もありますが、不法投棄や不適正処理を減らすためでもあるんです」と若尾社長。県のエコパーク構想が宙に浮く中、協議会の事務局長であった社長が自ら動いて立ち上げた新会社は、提言の一部を実現させた形となった。

目先の利益で判断せず 実際を理解するのがたいせつ

いかに二酸化炭素を出さずにいられるか。循環型社会をめざすには、使



● 日本カービルト株式会社 ●

若尾忠男商店（甲府市上石田）の若尾明彦社長が、カーディーラー6社と山梨中央銀行の出資を併せて2005年7月に設立した使用済自動車のリサイクル会社。資本金3千万円。従業員19名。同業種では北海道のマテックが有名。先進県新潟へも地域住民と視察に行くなど相互理解に努めている。約1haの敷地面積、処理能力ともに県下最大規模。

〒406-0841
山梨県笛吹市境川町大坪285
☎055-266-8200



日本カービルト 株式会社

若尾明彦 社長

屋上、ベランダなどに 天然の芝や植物を 植えてみませんか！

新築時はもちろんのこと、
既存建物でも数日で緑化できます！

特長

- 1 安らぎの場に、自然に人が集まります。
- 2 芝生の上は涼しくなります。
- 3 屋上に使うと気温が夏季で約3℃下がります。
- 4 冷暖房費が下がります。
- 5 子供が安心して遊べます。



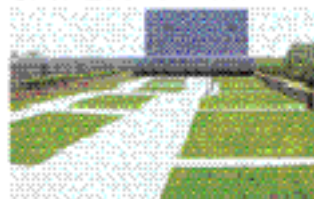
オフィスビルやマンションに



個人宅に



個人宅に ホテルやアパートに



病院やリハビリ施設に



イベント会場に



保育園や幼稚園に

(株)早野組本社プロジェクト本部の
屋上にモデル庭園をつくりました。

屋上緑化・壁面緑化の計画・設計から
施工・維持管理方法に至るまで、ニーズに
合わせたトータル提案をおこないます

お問い合わせは (株)早野組 環境事業部

TEL055-225-2001 FAX055-225-0566

E-mail webmaster@hayano.co.jp 担当：河西、宮野

いつでも見学できます！



株式会社 早野組

本社 ■〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL 055-235-1111 (代) FAX 055-235-1109
●リネージュアル部 TEL 055-232-0200
東京支店 ■〒100-0635 東京都千代田区千代田2-5-24
TEL 042-667-8800 FAX 042-667-8497

中部支店 ■長野県松本市中央2-1-1
新松本駅前 ■TEL 0262-22117 FAX 0262-22118
長野支店 ■長野県長野市中央2-1-17
長野駅前 ■TEL 0262-22117 FAX 0262-22118
新潟支店 ■新潟県新潟市中央2-1-17
新潟駅前 ■TEL 0252-22117 FAX 0252-22118

TEL 0252-22117 FAX 0252-22118
TEL 0252-22117 FAX 0252-22118
TEL 0252-22117 FAX 0252-22118
TEL 0252-22117 FAX 0252-22118

ISO14001 ISO 9001

http://www.hayano.co.jp

サークル訪問

汗で育つ 感性が光る
街にめばえる文化探訪

音楽で広がる世界、繋がる人々

フォルクローレを 奏でて楽しむ 山の仲間たち



定期コンサートはメンバーらの励みのもと。ロコミで年々盛況に

グルーポ・モンターニャス

楽器も音色も、個性派
ぞろい

「コンドルは飛んでいく」や「花祭り」で日本人にも馴染みのある中南米の音楽、フォルクローレ。これを自ら演奏して楽しむサークルが“グルーポ・モンターニャス”だ。

「スペイン語で山の仲間たちという山梨にちなんだ名称です」と代表の堀込孝一さん。日本の尺八に似たケーナは、独特の神秘的な音色が特徴。他にも葦を束ねた笛、サンポーニャや毛皮を張った太鼓のボンボ、リャマやアルパカの爪を集めたパーカッション、チャフチャス、南米独自の弦楽器、チャランゴやギターなど、個性的な楽器が揃っている。

大地に響きわたるような力強さと空へ突き抜けるような軽やかさ。その両極を併せ持つフォルクローレは、素朴ながら実に味わい深い。「同じケーナでも吹く人によって音色が変わるのが面白いんですよ」と堀込さんが教えてくれた。



「聴くより演奏、ソロより皆で合奏するのが楽しい」と堀込孝一さん



コンサートを控え、練習に熱がこもるメンバーたち

遠くて近い
南米へのお誘い

最新のテクノロジーを駆使した研究から、日本人の祖先と南米アンデス人の祖先のDNAが酷似していることが判明。その昔、陸続きだったベーリング海峡を古代縄文人が移動した証という。それも私たちがフォルクローレに惹かれる理由のひとつなのだろうか。

10月28日(日)には、甲斐市敷島総合文化会館で午後1時30分からコンサートが開催される(両日とも予約不要・入場無料)。堀込さん曰く「聴くより演奏が、ソロより合奏が楽しいですよ」とのこと。ひとたび耳にして興味をもたれた方は、気軽にグルーポ・モンターニャスのドアをノックしてみてはいかが。

◆グルーポ・モンターニャス◆

フォルクローレ演奏を楽しむ同好会が平成7年を機にこの名称で正式にスタート。以来、数々のコンサートを行ってきた。レパートリー約30曲。メンバーは現在15名。毎月第2、第4土曜の夜、昭和町中央公民館で練習している。入会希望者は随時受付中。初心者教室もあり、見学のみも大歓迎。

連絡先 ☎055-275-4829 (鈴木)
e-mail cub@yo.rim.or.jp (堀込)
ホームページ http://www.yo.rim.or.jp/~cub/

夏休み、東北のとある小さな湖のキャンプ場に泊りました。出会いは通りがかりに偶然見つけ、ふらり立ち寄ったことに始まります。

静かで澄みきった湖に、ぐるりと囲む美しい樹木。見上げれば、もやのかかった空に、どこからか鳥のさえずりが聞こえてきます。湖のほとりにぽつんと佇むのは、管理棟、炊事、ポート小屋、あずまや、テントの敷板のみ。着いた当初降っていた霧雨も、湖畔を散歩するうちにいつしか晴れ間が出てきました。

「さあ、ポートに乗ろう。」管理人のおじさんは慣れた手つきでポートをこぎだしました。波一つたたない、静寂に包まれた湖をポートはゆっくり進みます。私は目に映るものすべてが新鮮で、思わず質問してみました。「あの木は何の木ですか？」すると、おじさんは答えました。「私はこの土地で育ち、知り合いもほとんどがアウトドアの仕事に携わっているのですが、最近、自分がいかに狭い

～Seasons Yamanashi～

ブナの森

エッセイスト
深谷百合苗

世界で生きてきたか反省することがあるんですよ。これはブナの木です。ブナを知らない人はいないと思っていました。」その後も周囲の自然、雲の流れをすらすら説明される様をみて、自分がいかに身の周りの自然に鈍感に生きてきたか、痛感させられました。

甲府の湯村山の麓の住まい、自然の美しさに魅せられ、足繁く通った八ヶ岳、現在の杜の都仙台、そして目の前に広がるブナの森。転勤族ながらもその時々で緑美しい地を選び、過ごしてきたつもりでした。ところが、お花屋さんに並ぶ植物の名前は多少出て来ても、今自分のおかれた環境の樹木や野草の名前はすぐに出てこない有様。管理人のおじさんにしてみれば、生活の中で自然に身に付いたごく当たり前の感覚。にもかかわらず、何でも手に入る便利な世の中での生活に慣れた自分は、最も根本的で大切な感覚を忘れて生きています。沢山の高度な知識を憶える以前に、身近な自然にもっと目を向けるべきだとこれまた反省。

二年前前に息子と拾ったドングリが、ベランダでいつの間にか50センチほどの苗に成長した様をみて、私たちの感性もこの苗とともに日常の自然と寄り添って歩いてゆきたいと、旅先でみたあのブナの森に想いを馳せながら願うのでした。



富士吉田市 吉田の火祭り

毎年8月26、27日(旧暦7月21、22日)の2日間に行われる吉田の火祭りは、北口本宮富士浅間神社と境内社諏訪神社の秋祭りです。富士山の山閉まいの祭りでもあり、日本三奇祭の一つにも数えられます。

26日の鎮火祭は富士山の無事を感謝するものです。浅間神社から大

神輿と御影(お山さんという富士山の形をした重さ1トンの神輿)が担ぎ出され、市中を練り歩きます。その後、神輿が御旅所(おたびしょ)に安置されると、高さ3m、70本余りの大松明に一齐に火がつけられ、約2kmの沿道は赤々と燃える炎の道と化します。この時、祭りのムードも最高潮に達します。

翌日は、ススキ祭りが行われます。ススキの穂にお注連を付けて神輿

に従うと、商売繁盛、学業成就、火防、安産の願いが叶うと伝えられています。

夏の終わりを告げる、どこことなく哀しげで情趣あふれるこの祭典、幕が閉じると、間もなく秋がやってきます。



沢登六角堂の切子(10月13日)

祭りに参加して、ふるさとも感じてください。山梨には他にもたくさんの祭りがあります。



切子は南アルプス市沢登地区に伝わる伝統工芸です。毎年10月13日夜、沢登六角堂では、この切子(別名「おすかし」)の祭典が盛大に行われます。切子は、美濃和紙を数枚重ね、手作りの切出しやつきのみという刃物を使って図柄や紋様を彫り抜いたもの。特に六角堂の切子は精緻であるのが特徴です。祭典は300年以上もの歴史があり、切子は県の無形民俗文化財にも指定されています。



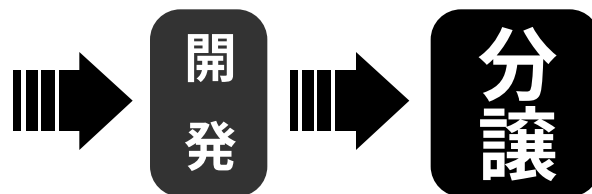
INFORMATION

土地の売却情報をお寄せください。

(株)早野組 開発部では「田・畑・原野・山林」を取得して開発、分譲を行っています。県内土地の売却情報のご提供をお待ちしています。

田・畑・原野・山林など

- ・農業後継者がいない
- ・規模を縮小したい
- ・土地を持っているが今後も利用しない



お問い合わせ先
早野組開発部 直通
TEL 055-225-2001
FAX 055-225-0566
http://www.hayano.co.jp

=募集地域= ■甲府市 ■昭和町 ■中央市
■甲斐市 ■韮崎市 その他

詳細につきましては、お気軽にお問い合わせください。

(株)早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055-235-1111
http://www.hayano.co.jp

事業用地(売買・賃貸)も求めています。お気軽にご相談、お問い合わせください

より力強く、よりアクティブに。 2BOXとSUVを融合させたクロスオーバースタイル、新型イスト



From the Chief Engineer
クルマに個性や先進性を求める方への、
新ジャンル・コンパクトカー

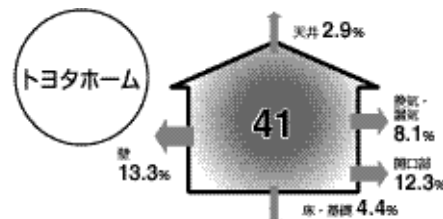
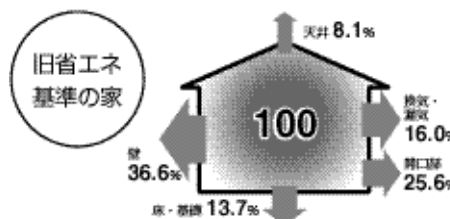
「New Style, New Position」をテーマとし、2BOXとSUVを融合させた新デザインと、新搭載の1.8リットルエンジンなどにより、軽快さや取り回しの良さに加え、力強さや躍動感といった新たな魅力を兼ね揃えることを目指して開発した、クロスオーバースタイルのコンパクトカーです。

ネットトヨタ甲斐(株)
本社：甲府市朝気3丁目10-21 TEL055-232-5511

夏涼しく、冬暖かく、バランスを考え抜いたトヨタホーム。 断熱性能が健康問題を解決。

トヨタホームの熱損失の割合は、
旧省エネ基準の半分以下

旧省エネ基準の住宅とトヨタホームの熱の逃げる割合を比較してみると、天井、壁、開口部など住まいのあらゆる部位において、トヨタホームの熱損失の割合が低いことが分かります。



●旧省エネ基準の家全体の熱の逃げる割合を100とした場合。

トヨタホーム山梨(株)
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL055-275-1234 FAX055-275-7806
http://toyotahome.mediagalaxy.ne.jp/yamanashi

INFORMATION

大手企業の経営統合が進む

難局を乗り切るには抜本的な改革が必要である。顧客満足最大化にはスピードを持って対応していかなければならない。百貨店の三越と伊勢丹は来年4月に経営統合することを正式発表した。提携交渉が明らかになった祭、業界内ではプライドが高い良家の子女と体育会系がうまく合意できるはずがないといふかる声が根強かったらしい。急転直下の解決は生き残りを模索する業界関係者の危機感の表れだろう。

物流業界においても経営統合までに至らないまでも、再編に向けた動きには枚挙にいとまがない。日立物流と福山通運の戦略的提携に始まり、近鉄エクスプレスと商船三井、さらにヤマトホールディングスと日本郵船の資本提携、最近では

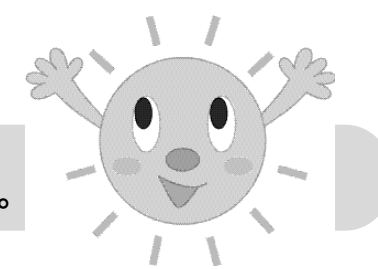
日本通運、ヤマトホールディングス、セイノーホールディングスの三社が株式の相互持ち合いにより協力関係を強化した。何も危機感を募らされているのは百貨店関係者に限ったことではない。

トラック業界は1990年に施行された物流二法で勢力図が大きく様変わりした。総輸送量が落ち込む中で、事業者数は増え続け、現在では6万社を超えた。業界の市場規模は12兆円といわれ、仮に日通、ヤマトホールディングス、セイノーホールディングスの三社が経営統合すれば売上高合計は3兆5千億円で約3割のシェアを確保する。何が起きても不思議はない時代になり、中小企業でも対抗できる組織力を準備しておく必要がある。

甲府通運(株)
本社：中央市山之神流通団地3329-9 TEL055-273-0611

太陽光発電システムのQ&A

地球温暖化 環境保全を考え
太陽光発電システムに力を入れています。



- 一般家庭では、どの位の発電システムを設置しますか？
3.5KW位です。(=3500W 30Wの蛍光灯100本以上)
- どの位発電しますか？
おおよそ3.5KWシステムで月平均300~350KWhです。
- 価格は？
メーカーにより単価差はありますが、1KW当たり60~70万円位です。

- 寿命は？
太陽電池パネルの寿命は30~40年と言われています。メーカー保証は 付属機器共10年間です。

(株)ロード 本社：甲府市下小河原町262番地 TEL055-241-6161(代)
FAX055-241-6118 e-mail uproad@pluto.plala.or.jp

ここから始まるやさしい介護

今年2月に甲府事業所・青沼事業所を統合し、甲府東営業所として善光寺1丁目に新店いたしました。本部も4月に上石田1丁目に移転しております。やさしい手甲府の新しい拠点として今後とも宜しくお願いいたします。



甲府東 ☎055-231-7007 飯 沢 ☎0556-20-7330
富士見 ☎055-220-3888 甲 州 ☎0553-44-5160
甲府西 ☎055-236-5151 山 梨 ☎0553-21-7330
北 社 ☎0551-42-1213 笛 吹 ☎0553-20-5330
韮 崎 ☎0551-20-5115 吉 田 ☎0555-30-4441
甲 斐 ☎055-260-7701 八王子 ☎042-669-0810
南アルプス ☎055-280-0230

ヘルパーさん大募集

資格
ヘルパー2級以上
あとは、あなたの
笑顔があればOK!

時給
1,000~2,000円
サービス・時間帯
に応じて決まり
ます。

安心
初めての方でも
だいじょうぶ
先輩ヘルパーが
同行指導。

○初めに働ける曜日や時間をお知らせ下さい。あなたのペースで仕事を始められます。

○資格は無いけど働きたい!そんな意欲のある方は、まずは当社提供先のヘルパースクールで資格取得の勉強会も開催しています。

(株)やさしい手甲府
本部：甲府市上石田1-7-14 TEL055-236-6210
http://www.yasashiite-kofu.co.jp

八王子の台町の寺に
祀られる女性
その名は永久不滅に
愛されている

しんしょうに
信松尼

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家
県立図書館郷土資料室を経て67年から
文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」
等多数



信松尼がたどった阿弥陀堂跡



信松尼が最初に厄介になった海島寺
(山梨市栗原)



信松尼の姿



信松院から右手に八王子城を見る

武田信玄の側室油川夫人の腹からは、三人の子供が誕生している。続柄からいえば、五男で信州の仁科家を継いだ盛信、五女で越後の上杉景勝夫人となったお菊御料人、信玄の末娘として生まれた、六女の松姫の三人である。

油川夫人は武田氏の一族で、油川信守の娘といわれ、信玄とは又兄妹、三条夫人や諏訪御料人の腹とは別腹ではあるが、信玄は差別することなく、この子供達を可愛がった。

史料を追うと、永禄8年(1565)松姫は5歳のとき重い病にかかってしまったが、信玄は富士吉田の北口富士浅間神社に、息女病氣平癒を祈願している。

それから二年後、永禄10年(1567)1月に入り、織田信長から突然、当年7歳の松姫を信長の嫡男奇妙丸

(後の信忠)の内方に、是非申し請けたいという懇請が届けられた。それというのも、信長はすでに美濃国の遠山勘太郎友勝の娘を養女にして、武田勝頼に娶らせる政略結婚に成功していたのだが、しかしこの養女は、高遠城の勝頼の許に永禄8年(1565)奥入れしたけれども、永禄10年(1567)信勝を生んで間もなく他界してしまったのである。

そのため信長は勝頼夫人の計をきくと、それこそ間髪を入れずに次の手を打ち、永禄10年11月、使者を信玄のもとに派遣して、信長の嫡男奇妙丸11歳と、信玄の息女松姫7歳の婚約を申し出てきたのである。

信長はその頃、畏怖する信玄に一目も二目も置く態度を示して、後顧の憂いを断つ拳に出ていたのである。信玄の方はまた、もっと慎重派

ではあったが、政策上の計算もあり、重臣の一部が反対したけれども、この場合は信長の申し出を受け入れて、婚約は成立することになった。

その結果信長は、早速婚約成立の引き出物を武田家に送り届けてきた。信玄への贈物は「虎の皮三枚、豹の皮五枚、緞子百巻、金具の鞍轡十口」とあり、松姫への贈物は「厚板百端、薄板百端、緯白百端、織紅梅百端、代物千貫、けかけの帶上中下三百筋」とある。まさに目を見張るような豪華な品々であった。

これに対して信玄から信長への贈答品は、「越後有明の蠟燭三千張、漆千桶、熊の皮千枚、御馬拾一疋」とあり、御曹司奇妙丸への贈物は、「大安吉の御脇指一口、義広の御腰物一口、紅千升、綿千把」となっている。

両者の選んだ結納品を見ると、信長の見立てた虎の皮、豹の皮などの舶来品好みに対して、信玄の贈答品は地味ではあるが、しかし漆とか蠟燭は当時大変な貴重品で、諸大名垂涎の必需品であった。

ところがさらに信長は、使者の秋山伯耆守信友を最大限にもてなしたばかりか、さらに武田家への贈物を数多く選んでは贈り届けている。甲陽軍鑑を見ると、「同年七月上旬に信長公より信玄公へ大いなる御音物あり、際限なし、書くに及ばず、御料人様へは八帖敷ほどの御にほひ袋被^レ進^レ之也」と伝えているほどである。

信長と信玄のこのよう虚々実々の駆け引きは馬鹿氣ているが、それにしても松姫に贈られた八疊敷もある、匂い袋を贈ったというのは解釈に苦しむほどである。いずれにしてもこの婚約発表によって、一番得を見たのは信長である。強引に信玄と同盟を結ぶことにより、後顧の憂いを断った信長は、永禄11年(1568)にはついに念願の上洛を果たし、足利義昭を征夷大將軍に補さしめ、これを契機に歴史の歯車が大きく転換しはじめたのである。

こうして奇妙丸と松姫の婚約は五年間も続いたのであるが、元龜3年(1572)に入ると、この年から始まった西上作戦の一つ遠江への侵攻に、家康の軍勢に信長が加担していることを知った信玄が、激怒して奇妙丸と松姫の婚約は破棄されることになってしまった。

この結果、松姫は婚約破棄から以後、武田館の中では新館御料人と呼ばれるようになった。松姫の場合は

奇妙丸との婚約がなにしろ五年間も続いたのであるから、破談となってもすぐ次の候補者が選べるという訳ではない。どうしてもその結果は、仏門に入るしか道は残されていなかったのである。たとえ甲濃不和となっても貞操を守り通そうと覚悟したのであろう。

松姫は伝えによれば、婚約者奇妙丸への操を立て、降るような再婚話にも耳をかたむけず、天正5～6年(1577～1578)頃には一連寺の末寺で、武田家とゆかりの深い玉田寺(尼寺)の、生式房の許に身を寄せて仏道一途の道に入ってしまったと



松姫がたどったという松姫峠

いう。ただここでもいろいろな説が入り乱れている。たとえば勝頼は、松姫を上杉景勝のもとに嫁がせようと説得したが、聴き入れなかったので、やむなく菊姫を嫁がせたともいわれている。また一説には松姫は天正6年(1578)18歳で尼になってしまい、翌天正7年(1579)兄の盛信が高遠城主になったとき、城内に松姫のための新館を建てて呼び寄せたので、新館尼、新館御料人と呼ぶようになったとも云うのである。或いは松姫はこの伝承のように、八王子に出て尼になったのではなく、玉田寺において剃髪したことも充分考えられるのである。

こうして仏門に入り、兄盛信の許にいた松姫は、この時22歳、信長の武田狩りの風聞をきくと、たとえ仏門にあり、隠棲の生活をしているといっても、僧俗まで平気で焼き殺す信長の仕打ちを聞いて、落ち伸びることを決意し、関東に逃避、八王子の横山に隠棲することになった。

途中逃げていく道筋の栗原の開桃寺、塩山の向岳寺、相武国境の案下峠などには、松姫伝説が彩濃く残されている。結局落ち着いたさきは、八王子市下恩方町の曹洞宗の心源院であった。この寺で正式に得度し、信松尼を名乗るようになった。そしてこの寺で八年間修業して、天正18年(1590)、現在の八王子市台町に草庵を建てて移り住んだ。つまり現代の八王子市信松院の始まりである。草庵といっても完全な寺ではなく、朝晩の読経以外には生活のたつきとして蚕を飼ったり糸をつむいで機を織るのが毎日の日課であったという。

しかしそのうちに武田の遺臣達が信松尼のことを伝え聞いて集まるようになり、草庵に援助の手が差し伸べられて、次第に寺の体裁が整えられるようになった。

信松尼は晩年、徳川秀忠の側室お志津の方が産んだ幸松を見性院とともに養育し、信松尼の没後、この子は保科正直に託され、この幸松が後に会津藩主松平肥後守正之になったのである。

信松尼の晩年は、前半の数奇さに較べまことに平穏で、元和2年(1616)4月、56歳をもって没した。墓は八王子市台町の信松院にある。法諱は信松院殿月峰永琴大禪尼という。

写真でしか見たことがない製糸場

南アルプス市の倉庫町にある齋藤製糸場。離れた場所からも高い煙突が目に入ります。あの煙突は何のための煙突だろう？ 銭湯でもあるのかしらと、思われていた方も多いのではないのでしょうか。この煙突、巨大な自動繰糸機で糸を繰るときに使うお湯を沸かす、ボイラー室の煙突なのです。

南アルプス市ふるさと再見ツアーで齋藤製糸場を見学できると知ったとき、心が躍りました。さっそく文化協会の皆さんとつなぐメンバーとで大掃除。各ポイントに案内表示を置き乾繭場で入り口付近のスペースに、甘利さんが大切に保管していた貴重な養蚕の風景写真と、写真に写っている養蚕関連道具も展示しました。

さまざまな機械が活躍

当日はボイラー室から見学し、お湯を運ぶパイプを目で追いながら寄宿舎や浴場などを見た後、自動繰糸場へ。体育館ほどもある巨大な空間に列をなして設置された繰糸機の姿に圧倒されました。なんというスケールでしょう。確かに古い写真で見たことのある光景が、そこには広がっていました。

ボイラー室から送られてきたお湯は、この部屋の入り口付近に設置されている機械で繭玉を繰糸機まで運び、繭玉はそこで糸を引き出されるわけですが、この、繭の糸口を見つけ出す機械がまたすごいのです。

「素結ばうき」と呼ばれるこの機械、筆の先のようなものがたくさんついて

山梨に一つしか残っていない製糸場

山本育夫

ボクのやまなしフィールドミュージアム

04

ミュージアムマガジンドーム(ONE)編集長／アートマガジン・エリアル(ED)編集長／まろ見物誌ランデブー編集長／特定非営利活動法人つなぐ代表理事
中央公論、美術手帖、週刊朝日などに執筆。大学や美術館などでの講演も多数。美術品観察会のメイリングリスト主宰。参加希望者は yamaki@nxb.measure.jp まで。参加費無料。

いて、それでお湯の中にある繭の糸口を見つけ出すというのです(実際には動かせないので、その方法は想像するしかありません)。

引き出された糸は強度を増すために何本かより集められますが、これも繭の太さを感知する機械によって行われます。

つまり、それまでは人がやっていたこうした作業を、この機械たちは見事に代行したわけですが、もちろん人が各所について機械の不手際？をフォローしたことはいうまでもありません。こうした機械化により人件費削減ができたのでしょうか、そこにはまた悲話も生まれたことでしょう。

商標をプレゼント

さて、繭玉から糸をとり、それによって強い絹糸をつくる過程は理解できました。

その絹糸をきれいに束ねて袋づめしたり、商標を張ったり、箱詰めしたりという過程でも、さまざまな小さめの機械が活躍していました。そうした機械類も、そのまますべて見ることができました。これらも貴重な資料です。

打ち合わせのとき、何か参加者にプレゼントしたいですね、という話になり、齋藤製糸場で使われていた商標をプレゼントすることにしました。花柄の、なかなかかわいらしい商標で、みなさんに喜んでいただきました。

近代化遺産をリンクして歴史ゾーンを

齋藤製糸場の社長さんは健在で、工場見学も快く引き受けてくださり、またツアーの折にも挨拶をしていた

いただきました。もともとは繭問屋からスタートし、農家が運び込んだ繭を品定めする場所を備え、落札された繭を預かる仕事をしていましたが、その後、製糸業に移行します。最盛期には東北地方より(主に秋田県)工女が120人も出稼ぎにきていたそうです。

昭和30年頃から、低価格の中国産生糸が出回り始め、養蚕業は衰退し始めます。

さらに養蚕より高収入が見込める果物栽培が盛んになったのが追い打ちをかけました。

南アルプス市は今では、広大な果実地帯としてその名を全国に轟かせていますが、いつまた新しい波が襲い、果実地帯が何か他の産業に取って代わるかわからないという見方もできるわけです。

そういう意味でも、齋藤製糸場は私たちにいろいろなことを語りかけてくる「現場」です。貴重な近代化遺産としても、その存在の意味は深いでしょう。

かつて一世を風靡した養蚕業がまちに与えた痕跡を今でも随所に見ることができます。そうした歴史を保存し、時には過去を振り返ることにより、行く末の姿を見定めるという契機の間所といえるでしょう。

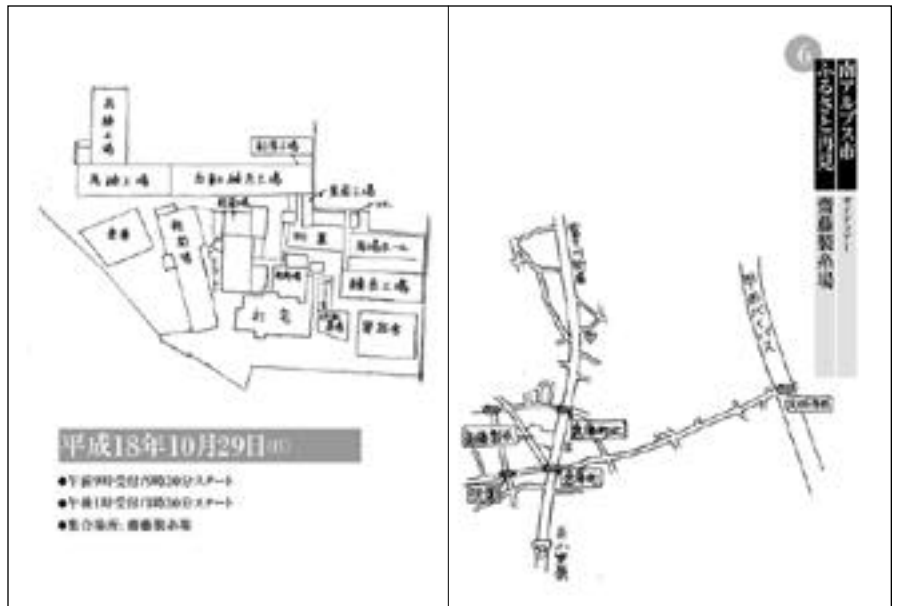
この建物を市が保存し、同じく地域のランドスケープ的存在である「三階屋」とか、甲州財閥の一人「若尾逸平公園」などとリンクさせ、果実地帯にある歴史ゾーンとして活性化させたら、果物ツアーにきたみなさんにもう一つの南アルプス市をかいま見せられるのではないかと思います。



ボイラー室の煙突



絹糸と商標



関東大震災以降も崩落は止まらず、滝は三〇メートル上流に後退した。昭和三十一年、大規模な護岸工事が施されて滝容はまったく変わった。とは言え、幕末に「雷吼巖石降り、龍跳谷川を走る、沫飛常に雨を起こし、瀾碎已に煙を生ず」（藤堂良道）と謳われた偉容は、今や佐伯橋から想像するばかりである。

た佐伯公蔵に因む佐伯橋は、実は、昭和二年竣工と四十二年竣工の二基とが並んで現存する。前者は通る人もなく、後者は付け替えられた国道にひっきりなしに自動車が行来する。時折私の胸に浮かぶのは前者で、それは何も滝の眺望に好都合だという理由ばかりではない。

昭和二年は県が土木出張所制度を初めて採用した年だ。橋梁専門の技手として単身山梨県に派遣された埼玉出身の私の祖父は、この年、谷村土木出張所の所長を務めていた。両親の結婚より前に亡くなった祖父だからもとより私には会えようはずがない。



桂川の佐伯橋から眺める田原の滝

釜無川に架かっていた旧信玄橋も今はない。欄干も朽ちて鉄骨が覗き、人跡絶えた佐伯橋は相見ることのなかった祖父の仕事を偲ぶ

たまにはたまたまみたい場所がある。昔「富士みち」と呼ばれた国道一三九号線の田原と十日市場の境の桂川に架かる佐伯橋もその一つだ。

ここから眺める田原の滝は濃い緑の縁取りと言いい、富士山の溶岩が凝固した兩岸の柱状節理と言いい、見る者の視線を桂川の上流から中空に誘う。かつては白根の滝、白滝とも言われる二段の滝で、下段は直下七丈（二〇メートル）巾七メートル、水音は近隣まで轟いた

という。天和三年（一六八三）、この地に五ヶ月間流寓した松尾芭蕉は滝に遊んで「勢ヒあり氷消えては滝津魚」（続芭蕉の句を残している。浅い春の雪解流を詠んだ古い句碑はいつか失われ、昭和

和二十六年、郡内の有志によって蘇る。自らの句碑の建碑は頑なに拒んだ飯田蛇笏の筆である。芭蕉が滝を眺めた橋が滝上に架け替えられたのは、甲州来訪を願いつつ大阪に客死する二年前の元禄五年（一六九二）のことだった。今はそこを富士急行が縫うように走る。明治三十一年、多くの文人墨客が杖を曳いた名瀑は兩岸が崩れて一段となる。

田原の滝・佐伯橋（都留市）

前山梨県立図書館長

福岡哲司

こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見

お茶の間の民俗学

郷土に伝承される芸能を紹介

歌舞伎はなんと言っても衣装がまず華やかである。「絵本太閤記」十段目と言えば、有名な「尼崎の場」で、県内でその昔、農村歌舞伎が盛んであった頃、どこでも上演された芝居好きにとっては懐かしい芝居である。武知（明智）光秀の息子の十次郎が出陣するために、新妻となった初菊とのせつない別れの場面を子ども達が上演する。

平成十九年四月一日、大月市民会館で猿橋地区の子ども達による「尼崎の場」が上演された。小学四年生から中学三年生までの男女生徒が出演し、途中十次郎と光秀のやりとりの部分はカットされたが、その他は通しで上演することができた。初菊の別れの場面や、加藤清正（清正）と光秀のからみなど生徒達がよくがんばった。

猿橋子供歌舞伎の誕生

劇作家 水木 亮



猿橋子供歌舞伎の稽古風景

の橋の上で「白波五人男」が上演された。

このきっかけを作ったのは「大月の芸能を育む会」である。大月在住の一人の主婦が地域興しの一貫として仲間を集めた。その中に大原よし子さんがいた。彼女はかつて猿橋にあった専用の芝居小屋「白猿座」ゆかりの人である。

白猿座は明治時代に建てられた。昭和の初期猿橋を本拠とし

た、大原長之助率いる音羽琴水一座、別名「理想劇団」が全国各地を興行して歩いた。戦後この小屋は焼失した。

大原長之助の子供に当たる大原よし子さんは、子供の頃子供役で出演していたから、育む会で歌舞伎上演の話題が出ると自ら指導を買って出て、子ども達に指導した。

大原よし子さんは歌舞伎伝統の衣装をたくさん保存しており、これを毎年行われる吉田歌舞伎にも貸し出している。そればかりでなく、彼女自身黒子や裏方として衣装の着付け、メイクなど歌舞伎独特の技術をマスターしている。大月の人間文化財ともいえる貴重な存在である。

また義太夫の三味線は国立劇場にも出演する竹本士佐子師匠が担当した。これらの応援を得て歌舞伎の舞台に立つことの出来る生徒達は幸せである。

やまなし・ふるさとの歌と芸能をたずねて

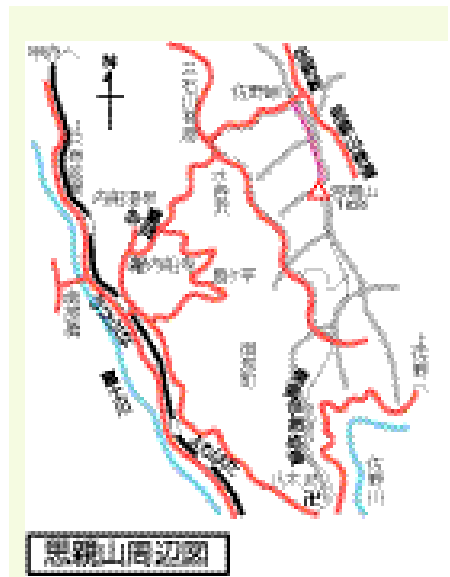
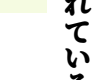
し しんざん
思親山 (1,031m) (南部町)
写真と文 上野 巖



思親山山頂から新雪の富士を展望する

で、よく整備されて
いる。木の階段
を踏みしめてゆっ
くり登ろう。

階段が無くなる
といったん傾斜は
ゆるまり、ヒノキ
やヒメシヤラの間
を緩やかに登る。
そして最後の木の



[参考タイム]

内船駅
↓ (車30分)
佐野峠
↓ (50分)
思親山
↓ (40分)
佐野峠
↓ (車25分)
内船駅

井山は大きく見える。
この山への登り方として、内船
駅から天子湖に入り、上佐野か
ら佐野峠経由という方法もある。
こちらでは、山間の茶畑が存分
に眺められる。

整備された山頂からは、まず富士山西面の全景が望める。大沢崩はやや左手になる。南には富士市と駿河湾、そして伊豆半島。北面の木立の間に北岳が垣間見えるのは驚きだ。西隣の篠井山は大きく見える。

階段を登ると広々とした山頂に
抜け出る。

甲府通運前史を訪ねる(30)

〈甲府通運のページ〉

今回は江戸時代の浮世絵ととりあげよう。浮世絵という「葛飾北斎が安藤広重の名がある。北斎は「富嶽三十六景」、広重は「東海道五十三次」と作品名がよく知られる。

北斉の「冨獄三十六景」は追加として十景が加わり、この分は俗に裏富士と呼ばれているので点数は四十六となり、この部に鰍沢、石和、河口、笹子などが描かれている。このシリーズが出版されたのは文政六年（一八二三）から天保元年（一八三〇）となっている。

この裏富士シリーズのうちから運送に関係のあるものとして「身延川裏不二」をみてみる。題となっている身延川は身延山の脇から門前町を流れ久遠寺三門の南で波木井川と合流する。したがって身延川と呼ばれるのは僅かの区間である。この絵では中央部に富士山が小さく描かれ、その下に身延川が流れている。富士山の位置からみると川は左から右に流れるとすると左は身延山へ、右は下山宿、あるいは大野の本遠寺を経て富士川の舟着き場に至る道となる。現在、この地域で富士山がみえるのは山間

北斎「冨嶽三十六景 身延川裏不二」から
みる道中の風景

林 陽一郎

はやし よういちろう
甲府市教育委員会文化振興指導員
山梨郷土研究会



部に登るほか鯉沢附近、岩間の月見橋、十島・万沢間の西行峠だといわれ、実際に身延川から富士がみえるかどうかであろう。北斉は富士川を身延川として描

いた可能性もある。富士山が白く雪があるので冬に近い時季、時刻は何時頃となると少々考えねばならない。中央に描かれている馬をみると馬子一人で二匹の馬をひいているので農耕馬ではなく人や荷物を運ぶ駄賃馬であると考えたい。しかし馬の背には「くら」がなく「ムシロ」がかけられているので稼ぎに出掛けるか、仕事を終えて家路に急ぐところかということになるが、江戸時代旅籠に泊った旅人は、朝は早く出発するのが一般的であるので朝方にこの姿で馬をひくことは少ないと思われる。とするとこの馬は朝早くから客を乗せて働き、少し早いが自宅に帰るのではないかと考えるが如何か。駄賃馬は街道の宿場^{しゆくば}に馬屋の指示で客を乗せたり荷を運んだりするが、問屋を通さずに馬方と客とで直接話合つて馬を使うこともある。このときの運賃を^{あいたい}相対相場^{あいたう}といっている。客を乗せて稼ぐのは、富士川沿いの大野から久遠寺まで、あるいは下山宿から身延までの一里余(約五キロ)、さらに南の南部宿までの三里(約十二キロ)の区間である。馬はこ

の附近の農家で飼育され、毎日問屋へ出向いて仕事をする。さらに馬方の先方には客を乗せた駕籠が描かれている。これは担ぎ棒が竹、屋根部分も竹を編んだものから宿場駕籠である。客は自分の笠を屋根にしぱり付け道中合羽をかぶって寒さを防いでいる。人足は杖で調子をとりながら急ぐ様子である。これは身延の町へ早く着いて宿をとりたい客の心情を表したのか。宿駕籠も駄賃馬と同じく宿場問屋の指示で客を乗せる。この場合、宿と宿の間一区間のみの利用で、つぎの宿ではまた駕籠を乗り換えなければならないという不便さがあった。この絵の駕籠の客はしばしの休みを駕籠の中であつているところか。左手に描かれた天秤棒で荷物を担ぐ人は右方に荷物、左に笠と合羽を下げてバランスをとっている。荷物はそんなに重くないということとなると身延名産の「ゆば」を持っているのかとは考え過ぎだろうか。一枚の絵ではあるが描いた作者の意図や当時の風俗を知ることが出来るのは楽しいことである。



愛車とセールスの難波さんを交えて

北杜市高根町の緑豊かな地にお住まいの保坂さん。その家の車庫にはご主人のアルファードに、奥様と娘さんそれぞれのbBの3台のトヨタ車が並んでいる。

「トヨタ車とのお付き合いはもう20年近くになりますね。ある時、町ですごく素敵な車を見かけたんです。それがトヨタの車で、その車を購入したのがお付き合いの始まりです。それ以来ずっとトヨタ車ですね。デザインも素敵ですが、性能もとても優れているので、安心して乗れます」と奥様。

既に社会人や大学生になっている娘さんが3人いらっしゃる保坂家では、お子さんが生まれてからはハイエースに乗るようになり、「家族で出かけるのもラクでしたし、主人は体が大きいので、ハイエースのゆったり感や安定感がとても気に入っていました」と、乗り換えのたびにグレードアップしながら、結局3台を乗り継いだという。

1年半ほど前にハイエースからアルファード乗り換えたが、「予算も考えてボクシーにしようと思いながら展示会に出掛けたんですが、アルファードを見たらやはり気に入ってしまいました。それにいつもいろんなわがママを聞いてくれる営業の難波さんにも見つかったちゃって(笑)。でもアルファードにしてよかったです。主人は通勤で毎日1時間近く運転しているんですが、とても

快適みたいです」と奥様。乗り心地はもちろん、充実の装備にも満足しているそうだ。

休日には京都に住んでいる娘さんのところに車で遊びに行くこともあるそうで、そんな時に活躍しているのがbBだ。「bBは運転しやすく、燃費もいいので、遠くに行くときにも乗ることが多いですね。高速も安心

して走ることができ、小回りもきくので京都の狭い路地でもラクラク運転できます。それに後部座席も広いので、家族で乗ってもゆったりとしています」と今やbBは家族みんなの頼れる存在となっているようだ。

頼れる存在といえましょう1つ、というよりもう1人いる。営業マンだ。「難波さんはとてもマメに連絡をくれて、困った時はすぐに対応してくれる頼もしい人です。それにお店のほかのスタッフの方もすごく親切で、つつい立ち寄りたくなる店です」と奥様。

最後に次もトヨタの車を選びますか?と尋ねると、「もちろん。やっぱり難波さんでなくては」と満面の笑み。保坂さんご一家とトヨタ車、そして営業マンとの厚い信頼関係は、これからもずっと続いていくだろう。



親戚の結婚式で家族と

若草小学校からほど近く、周りに田んぼが広がる閑静な住宅地。この一角にさりげなくスタイリッシュな家がある。富士通アイネットワークシステムズ株式会社にお勤めの本多洋之さん(34歳)宅。乳白色やサンドベージュの淡い色合いの外観に、緑が映える美しい『シンセスマートステージ』。家の中も同じトーンで統一され、穏やかな雰囲気だ。窓を通して明るい光がさし込み、爽やかな風がカーテンを揺らす。4年前に結婚した当初から、家建てることは考えていたという。「軽量鉄骨を使っていて頑丈な住宅であることと、知り合いがいるということでトヨタホームに決めました」と本多さん。

1階にはお母様のお部屋と和室、リビング&ダイニング、バスルーム、2階には寝室やオーディオルームなどがある。「4月から入居しましたが、予想以上に快適です。特に家事導線が便利なので助かりますね」と奥様の智代さんにもこやかに話す。

キッチンにパントリーをつけたり、洗濯機を洗面所の壁面に収めたりすることで、スペースがすっきりし、動きやすい空間が生まれた。また、壁に配された幅約25cmのスリット窓は、複層ガラスで割れにくく、セキュリティ度が高い。見た目もお洒落だ。



将来を語ってくれた本多さんご夫妻



外景ともマッチした明るい壁のシンセスマートステージ



最新の音響設備の自慢のオーディオルーム

お母様も「夏の夜に、窓を開けたままで眠れるのがとても安心。」と喜んでいるという。

いちばんのこだわりはご主人の趣味のオーディオルーム。音響に考慮すると、凹凸のない長方形の間取りが必要になる。本格志向の7.1チャンネルを叶えるスピーカー。調光付きのライティング。大画面の液晶TV。「思い描いていた環境が実現しました。営業の川口さんには本当に感謝しています。」

家族皆に満足感の高い家。「オーディオルームは将来子ども部屋にしてもいい」と考え、「庭も少しずつ手をかけていきたい」など、楽しみは膨らむ。新しいこのステージなら、きっといくつもの幸せのシーンを温かく見守っていつてくれるだろう。

コツコツと10年、 経験は見えない糧に

10年ひと昔、とよく言う。20歳で入社してちょうど10年。節目の年では中堅として営業部の主任を任されている。「毎日苦勞しています。なかなかお客様の心をつかむのは難しい」と朴訥と話す佐野俊彦さん。相手にするのは30代半ばから上は70代まで。最初の頃は先輩と同行していたが、今はもっぱら1人で動く。

住宅営業はラクではない。生涯に何度もない大きな買い物なので、おつきあいで今年もちょっと、というわけにいかないからだ。平均契約件数は年7〜8棟。この10年で約50棟を手がけた。車で通りかかった際に、自分が今まで担当した家を目にするとやはり、うれしい。引き渡しの際にはお客様から「ありがとう」とお礼を言われる。が、「喜んでいただけて本当はこちらこそ、“ありがとう”なのです」と話す。また、完

成して即、終了ではない。入居されてからのご感想なども、後々の営業に活かす貴重な材料となる。

本人はおそらく、10年という時間にあまりこだわっていない。ただ気がついたら10年経っていた、という感じだ。気負いもてらいもない、自然体の人。こちらの質問に静かに耳を傾け、一つひとつついでいねいに応えようとしてくれる姿勢が印象的。そんな人柄を気に入られてのことだろう、担当したお客様から、知り合いを何人も紹介していただいているという。

トヨタブランドに 誇りをもって

「車もそうですが、トヨタというブランドに対する信頼でしょうか。研

究を重ねて、いいもの、安心していただけるものを確実につくっている、自信をもって売れます。」商品に心底惚れているからこそ、いい営業ができるのだ。契約後は何度も打合せを重ねて図面をつめていくが、完成しかけてどんでん返し、もままある。責任は認められていることの証、最後まで力を抜くことはしない。それは、この仕事が好きだから。面白いから。人との出会いや新しい知識など、この仕事を通じて得るものが多いから。外回りならではの仕事の醍醐味だろう。

「10年後の自分は考えたことがない」という佐野さん。それだけ今に一生懸命なのだ。さあ、2007年も追い込みの後半戦。今日も見えない自信をひしと胸に仕舞い込み、彼は出かけていく。Good Luck!!

人生の道筋は、
自分がつくっていくもの。
いままでも。これからも。



トヨタホーム山梨株式会社
営業部主任 昭和住宅公園展示場
佐野 俊彦さん（身延町）

介護保険ABC

— 福祉用具貸与 —



介護保険法により、平成18年4月から福祉用具貸与サービスの制度が大きく変更されました。福祉用具貸与をはじめ、サービスの制度変更についてご説明します。

◆福祉用具貸与とは

要支援、要介護の状態になったときにも、できる限り自立でその能力に応じて、自立した日常生活を送るために利用される方の希望・状況・価値観を踏まえて適切に福祉用具の貸与・取付け・調整等を行うサービスを行います。
介護用品は考え方として「貸与」が基本です。なぜなら、購入すれば、個人の財産となり、亡くなった場合はおごらんという考えからです。しかし、修理や入浴に関するものは衛生上などから貸与で特定福祉用具貸与の対象になります。

◆福祉用具貸与の種類（全13種類）

- 車いす
- 車いす付風呂
- 特殊浴槽
- 特殊浴槽付風呂
- 車いす用トイレ
- スロープ
- 手すり
- 歩行器
- 歩行補助具
- 車椅子用リフト（つり具部分を除く）

◆制度変更の内容

制度変更対象となるのは、「福祉用具貸与の種類」の●のものが対象です。これらの福祉用具は、要支援の人（要支援者、要介護1）については、要件の状況に照らして、一定の条件に当てはまる場合を除き、介護保険での有償給付が行われません。一定の条件に当てはまる場合に限り、引き続き介護保険での有償給付を受けることができます。

◆一定の条件

引き続き、有償給付の対象となるための条件は、以下の通りとなります。

種別	一定の条件	対応方法
車いす及び車いす付風呂	次のいずれかに該当する人 ○恒常的に歩行が困難な人 ○日常生活活動における移動の支障が特に必要と認められる人	認定調査結果で判断 ケアマネジメントで判断
特殊浴槽及び特殊浴槽付風呂	次のいずれかに該当する人 ○恒常的に起き上がりや移動が困難な人 ○恒常的に清潔さが保てない人	認定調査結果で判断
車いす用トイレ	恒常的に歩行が困難な人	認定調査結果で判断
手すり・歩行器・歩行補助具	次のいずれかに該当する人 ○要支援の要介護1・介護者への負担、設備・環境のいずれかに支障がある人 ○要介護1において介護が必要としない人	認定調査結果で判断
車椅子用リフト（つり具部分を除く）	次のいずれかに該当する人 ○恒常的に立ち上がりや移動が困難な人 ○車椅子が一部の用途または全用途を必要とする人 ○生活環境において移動の解消が必要と認められる人	認定調査結果で判断 ケアマネジメントで判断



交流施設安心ギャラリー



「要支援の要介護1安心ギャラリー」は、要支援の要介護1サービス「やさしい手」事業の一環として設けられています。毎月、高齢者向けに楽しいイベントを開催しています。特に、要介護1以上、要介護2以上のイベントを行っています。（要介護1の要支援、要介護2の要支援）
また、「安心電話」にてお問い合わせは、要介護1以上の方を対象としています。お気軽にご参加ください。（平日9:00〜17:00、要介護1以上の方を対象としたイベントや要介護1以上の要支援の方には、下記までお問い合わせください）

銀座街の駅1F「安心ギャラリー」 甲府市中央4-3-14
☎055-231-6632
<http://www.y-anshin.jp/>

介護保険に関するご相談は TEL 055 (236) 6210



在宅介護
やさしい手



<http://www.yamanashi-kyosei.jp/>

おしゃれ
パティスリー ザ・エレン
patisserie THE HEREN

宝石のようなスタイリッシュな美しさ
至福のワンシーンを彩る絶品スイーツ



レストラン「ラ・クール」がプロデュースする店「ザ・エレン」に、新たにスイーツショップが登場。シルバーと白の空間に真っ赤なソファやドアが並ぶ店舗は、まるでジュエリーショップ。緩やかカーブを描いたデザインのオシャレなショーケースに1点ずつ並んだ色とりどりのケーキは、まさに宝石のようなスタイリッシュな美しさ。

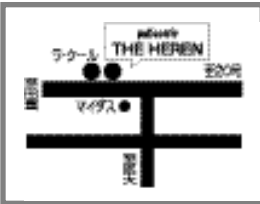
ダイヤモンド、サファイア、トパーズ、パール。ケーキには宝石の名前が付いていて、どれもそのネーミングにぴったりのスタイル。上品な味わいの中に、香りやとろける食感などちょっとした楽しさが隠されているのも、パティシエのこだわりだ。「誕生日などの記念日はもちろん、頑張った自分へ

のご褒美など、日々の生活の中での至福のワンシーンを、私たちのスイーツが彩ります。箱を開けた瞬間、ほおばった瞬間のほほえみを大切にしたいと思っています」とパティシエの坪川孝夫さん。

店内にはフラワーショップもあり、ケーキのようにアレンジした花をケーキと一緒にラッピングしてもらうこともでき、大切な日にさらに彩りを添えてくれる。また店内のカフェでゆったりと美味しい時間を楽しむのもおすすめ。パティシエがひと手間かけてデコレーションしたケーキは、ここでしか出会えない美しさと美味しさだ。

味わってはもちろん、ショーケースを見ているだけで、店に一步足を踏み入れたただで特別な気持ちにしてくれるザ・エレンで、ぜひ至福なひとときを。

営業時間 平 日 13:00~21:00
土・日・祝 11:00~21:00
定休日 水曜日
所在地 中巨摩郡昭和町飯喰457-4
TEL055-268-1663
www.heren-s.jp



ダービーハット
Coffee&Live Derby Hat

ピアノの生演奏にうたごえ喫茶
すてきな音楽で優雅なひとときを

ダービーハットも飾られている。オーナーは新宿のうたごえ喫茶「ともしび」でバンド演奏をしていたこともあり、「うたごえ喫茶の楽しさを再び」と、毎月第3日曜日には「うたごえ喫茶ダービーハット」を開催。ジャズピアニスト木島睦夫さんの生演奏で多くの人が歌を楽しんでいる。

昼はパスタやカレー、ハンバーグなどのランチセットがあり、コーヒー、サラダ付で1,000円。夜はミュージックチャージ500円とおかわり自由のコーヒー500円の合計1,000円で気軽に楽しめる。

ビールやワイン、焼酎などのお酒はもちろん、コロッケや麻婆豆腐、さばの煮付けなど食べ物も充実。おいしいお酒と食事を味わいながら、生演奏の歌をゆったりと楽しむ。そんな優雅なひとときを過ごせるお店だ。夜はお二人以上で無料送迎も利用できる。

営業時間 11:00~23:00
定休日 日曜日
所在地 甲府市貢川本町18-20
TEL055-235-8010
http://www.hinohara.co.jp

イブに行っていて、12月にはクリスマスライブを開催する予定。ほかにもピアノレッスンやボイストレーニングもあり、ライブ会場としても利用できる。家族で、友達で、グループで、ぜひ楽しんでみては。



オーナーの日野原さん



ジャズをはじめスクリーンミュージックやクラシック、歌謡曲、童謡など幅広い音楽をピアノの生演奏で楽しめるお店「ダービーハット」。店名はオーナーの古くからの友人という今陽子さんが、「ピンキーとキラーズ」のデビュー曲「恋の季節」の時にかぶっていた帽子にちなんで付けてくれたそうで、店内にはその



病院へ行こう
婦人科・産科・小児科・癌

×月×日

最近病院に行くことが多い。とは言っても、自分も家族も元気なのだが、ここ2年ぐらい病院ばかり行っているような気がする。始まりは妻の婦人科に一緒に行ったことからである。それから、流産、出産、子供のアレルギー・喘息、卵巣嚢腫、ついには弟の大腸癌まであった。そのほかに、親類のお見舞いも含めると、月に2~3回は病院に行っている。ひどい時は、子供の付き添いで2週間程度毎日通った。

そうして「病院の快適さ」に気がついた。病院内のシステム進歩に驚いている。たいていの病院は、「電子カルテ」というやつで、レントゲン写真から今まで処方された薬の履歴、治療スケジュールに至るまで全てパソコンに表示され、それを見ながらお医者さんの話を聞くことになる。

古くからの、手書きのカルテが悪いというわけではないが、妻・子供・弟といった、自分自身の病気でない場合、電子カルテを見ながら

話ができるというのは、状態の理解に大きな出助けとなる。最近の傾向は、「すべての情報を提示する」という方向にあるようで、例えば弟の場合、全ての検査結果を写真入りで提示してくれて非常にわかりやすかった。

また「医療の進歩」にもショックを受けた。妻は内視鏡、弟は開腹手術であったが、妻は3日程度で退院し、弟も2週間程度で退院してしまった。驚いたのは腸の約半分を取り除いた弟の手術で、次の日に彼が自分で歩いてトイレを済ましていたことで、後にNY在住の友人に、「その箇所その状態の癌なら、アメリカでは99%以上大丈夫」と言われてまた驚いた。

幸い、妻も弟も以前に増して元気になり、「心配させられたお返し」にこの原稿のネタになってもらったわけだが、もしもこれを読んだら怒られるのだろうか?「自分も病気になってみる!」と…。

旧制中学の入試問題より
世代による喪失感の違い

×月×日

日本では毎年夏になると、太平洋戦争関係の話題がしきりに話される。ふと本屋で「旧制中学の入試問題」に関する本を見つけ、読んだところ面白かった。

第一に結構難しい。国語の書き取りなどは、日頃ワープロに頼っているせいか、出来ない問題もある。流行りのポータブル・ゲーム機を買って、特訓して出直さなくてはダメかもしれない。第二に暗記が主である。最近流行りの「考えさせる問題」とは対極をなす。一にも二にも教科書の暗記である。しかし明治初期のものなどは、元の教科書の格調が高いのでそれなりの良問となっている。

そうして昭和になって、太平洋戦争が近くなると「どうしようもなくなる」。ある時期などは、国語も算術も「不適當」ということで排除されている。歴史の問題ばかりが問われ、やれ「楠正成」やら「八紘一宇」といった、軍国主義に塗りつ

ぶされる。うちの父は昭和4年の生まれだが、「戦争が終わって人間(大人)がどう変わったか」を見て「この世の中を信用することができなくなった」と言う。父は戦争に行ったわけではないが、彼の感じた「喪失感」は、戦争に負けたことと相まって、それ以降の彼の人生に大きな影響を与えた。

時代が大きく変わると、皆何かを失う。60年代70年代に革命を叫んだ者たちも、80年代の後半にバブルに踊った人たちも、同様に何かを失っている。今の若者は、何を失うのだろうか?それとも現代のグローバル化された社会では、失われてゆくのは「日本的な何か」であって「失うものは何もない」のかもしれない。

そういえば、好きなジャニス・ジョプリンの歌(古い!)に「自由とは何も失うものがないこと…」という一節がある。

〔文: 杉村 聡〕

俳人山頭火がのどを潤した道 ―佐久往還―

佐久往還は、甲州街道韭崎宿と信州佐久の岩村田宿を結ぶ全長約 18 里の道。甲州と東信を結ぶことから、佐久甲州街道とも呼ばれる。その道筋は、韭崎、若神子、長沢、平沢峠を越え、千曲川沿いに岩村田宿に至るもの。ほぼ現在の国道 141 号線にあたる。起点は、韭崎本町交差点の「韭崎追分」といわれる地点。甲州道中と佐久往還の分岐点である。かつてここには「右信州佐久の郡みち 左信州すわ上みち」の道標も置かれていた。また、若神子から万年橋、津金、海岸寺峠を越え、口留番所の置かれた浅川、平沢に至る道は「佐久道」とも呼ばれた。

道は、戦国時代、武田信玄の信濃平定への重要な軍用道路の一つで、中世以来は、信仰の道として、甲州からの信州善光寺参りや、信州からの身延山、伊勢、甲州善光寺参りの人々で賑わった。物資は、主に、米・木材・綿・塩・海産物などが多く行き交い、特に、塩は、富士川舟運のなかにおいて「上げ塩」と呼ばれ、甲州一円だけでなく、信州の佐久郡南部にまで運ばれるほどの主要な商品であった。このように、街道は「塩の道」としても発達した。

『連れて逃げてもヨ 長沢越せぬドッコイサー 手形なければヨー 関所破り ドッコイドッコイドッコイサノサー(以下省略)』―これは、高根町長沢に伝わる盆踊りの唄。唄にもあるように、長沢にはかつて口留番所が置かれ、長沢・東井出両農民でこれを守っていた。番所唯一の遺構は、「北の門」といわれる門



口留番所があった長沢宿

で、それは、長沢宿の間屋として栄えた「輿水家」の前に移築され、往

時の面影をひっそりと偲ばせている。

さて、念場原へ至る手前の急坂に、弘法坂があるのだが、その坂の途中、「弘法水」という湧水がある。名の由来は、昔、弘法大師がここを通りかかった時、三里もある長い原に水がないため、杖で大地を突くと、忽ち清水が湧き出したことにあるという。水は口あたりまろやかで、味噌を造るのに適しており、百日咳にも効果があるという。そのため、県外からも多くの人が汲みに訪れる。自由律俳句を作り続けた、漂泊の俳人、種田山頭火は次の歌を残している。行き暮れて なんとここの 水のうまさ

湧水の体に染みわたるような味わいが、まっすぐに伝わる歌である。山頭火は、ここでのどを潤し、さらなる人生の放浪の旅へと歩き続けて行ったのであろう。

〈治道の見所〉

―平沢峠 銅塚―



移築されて現存する長沢番所の門

1536 年(天文 5)年 12 月 28 日夜、武田晴信(信玄)は、初陣において佐久郡の海ノ口城を見事攻め落とした。その城主、平賀源心は討ち取られたのだが、六尺もある大男であったため、運ぶにはあまりに重かった。そのため、亡骸を信州南牧村平沢峠まで運び、ここで首をはね、胴だけこの地(賽の川原という場所)へ埋めたと言い伝えられる。一方、源心の首は、須玉町若神子上宿の地に埋められ、「首塚」として祀られている。

―海岸寺―

北杜市須玉町上津金にある臨済宗



弘法坂の旧道にあった弘法水は、味噌作りにかかせない良水で、甲府あたりからも汲みにきたという

妙心寺派の寺。養老年間、行基が庵を構えたのが寺のはじまりとされる。

天平 9 年(737)、聖武天皇より『光明殿』の勅額を賜り、国の祈願所になったという伝承もある。境内には、100 体余りもの様々な石仏群が立ち並ぶが、それらは信州高遠の石工、守屋貞治の作品で、西国三十三ヶ所、板東三十三ヶ所、秩父三十四ヶ所の観音像、延命地藏尊等と言われ、同じものは一体としてない。また、現在の建物は、文化 7 年(1810)、信州の名工、立川和四郎により再建築されたもの。正面のアワとウズラの彫刻は、日本の木彫史において名高く、貴重である。

―正覚寺―

須玉町若神子にある曹洞宗の寺。甲斐源氏の始祖、新羅三郎義光の菩提寺として知られる。寺は明治の日本画家、三枝雲岱(高根町出身)の作品を多数有しており、なかでも杉戸に描かれた丹頂鶴、桜林、老松は見事なもの。参道入口付近にある「味噌なめ地藏」は、病人が、自分の体の悪いところと、地藏の同じ部分に味噌を塗って拜むと病気が治るといわれている。これには諸説あるが、その昔、武田信玄が戦の際、峠で光り輝く地藏を見つけ、甲州へ持ち帰ろうと縄をかけ、引いて来たのだが、正覚寺前まで来るとまったく動か

なくなってしまうた。以来、ここに安置されるようになったのだという。今でも地藏の背中には、当時の縄のあとと見られる窪みが残っている。



須玉町にかかる万年橋は峡北初のコンクリート橋で、人々がわざわざ見物にきたほど

も地藏の背中には、当時の縄のあとと見られる窪みが残っている。

(写真：若林賢明)



株式会社ロード

〒400-0853 山梨県甲府市下小河原町262番地
TEL：055-241-6161(代) FAX：055-241-6118